

登録コード:MH305400 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	卒業研究【20M以降】 Senior Thesis		
担当教員	青木 薫 他 百瀬 公人・小宅 一彰・西澤 公美・横川 吉晴・北川 孝		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻/4学年 不定期 集中・不定期		
単位数、講義室	4単位	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	臨床における問題を解決するため手段として、理学療法研究法で学習した考え方や手法を使って問題設定からデータの解釈までをひと通り進められるようになる。
	MH25カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・理学		
	「科学的探求力」変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	理学療法に関連する臨床的・社会的課題に対し、先行研究やデータを基に科学的に問いを立て、倫理的配慮を踏まえながら探究を進めることができるようになる。
	「問題解決力」保健・医療・福祉の場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに関係者に伝えることができる。	⇔	保健・医療・福祉の現場で得られる多様な情報を収集・評価・分析し、科学的根拠に基づいて研究課題を設定し、適切な研究方法を選択できるようになる。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	理学療法における臨床研究の基本的理論・技術を小グループ単位、ならびに個別で学習し、将来理学療法の体系化に寄与できるような基本的な研究能力を修得することを目的とする。 本授業は担当教員の臨床における理学療法士・医師としての実務経験を活かして講義・指導を行います。3年次までの臨床及び基礎医学科目（解剖学、生理学、運動学等）と理学療法専門科目（理学療法研究法、運動学習理論、運動療法基礎論等）を基盤として、教員の指導の下、理学療法に関連する一連の研究過程を学んでゆくことになります。		
授業計画	第1回 オリエンテーション（全体またはグループ） 第2回 研究課題の発展、担当教官決定 第3回 各自研究課題に関する情報収集 第4回 各自研究課題に関する情報収集 第5回 研究課題、関連情報の整理 第6回 研究方法の確立：研究課題に答え得る適切な研究企画の選択 第7回 研究企画Ⅰ 第8回 研究企画Ⅱ 第9回 実験準備 第10回 実験準備 第11回 個別・グループ活動（データ収集） 第12回 個別・グループ活動（データ収集） 第13回 個別・グループ活動（データ収集） 第14回 個別・グループ活動（データ収集） 第15回 個別・グループ活動（データ収集） 第16回 個別・グループ活動（データ収集） 第17回 個別・グループ活動（データ収集） 第18回 個別・グループ活動（データ収集） 第19回 個別・グループ活動（データ収集） 第20回 個別・グループ活動（データ整理） 第21回 卒業論文作成 第22回 卒業論文作成 第23回 卒業論文作成 第24回 研究発表会 第25回 研究発表会 第26回 卒業論文作成 第27回 卒業論文作成 第28回 卒業論文作成 第29回 卒業論文作成 第30回 卒業論文提出、フィードバック		
授業の進め方	少人数グループ討議、研究計画書の作成、倫理審査、実験（データ収集）、データ解析、報告書の作成、研究発表および論文作成を通じて、理学療法に関する先行研究を概観し、基本的な臨床研究法を身につける。 本授業は、1年次に学んだ「生理学」、「中枢神経解剖学」、「運動学」の知識を前提とし、2年次の臨床医学、理学療法専門科目の内容と、3年次の「理学療法研究法」を基盤と		

授業の進め方	して相補的に学びながら、4年次に研究の実践過程を体験して身につけることになります。そして、本授業の内容は、卒後の臨床研究を実施する上で重要な基礎知識となります。
テキスト、教材、参考書	グループワークの中で紹介する。
成績評価の方法	グループワークの状況、プレゼンテーション（第24、25回、12月第3週を予定）、論文評価（第30回後）提出は1月第2週（予定）を用いて総合的に評価する。 理学療法研究法で学習した考え方や手法を使って問題設定からデータの解釈までをひと通り進められたかどうかは、プレゼンテーションでの質疑応答や作成した卒業論文の内容によって確認します。
成績評価の基準	評価は、研究課題設定、研究計画立案・計画書作成、倫理審査、研究準備・実施、研究成果発表と卒業論文作成の取り組み状況と、卒業論文の内容に基づいて下記の基準で行います。 (i) 問題設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」。4項目までできていれば「やや上にある(良)」。3項目までできていれば「水準にある(可)」。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 事前に卒業研究についてのオリエンテーションを行います。3年次後期の理学療法研究法の授業・演習内容を復習するとともに担当教員と相談しながら卒業研究に臨んで下さい 【事後学習について】 研究法に引き続き、研究課題決定後は担当教員が倫理審査申請書、研究計画書の内容に関して質問を行いますから、要点を「自分の言葉」で説明できるよう準備して研究に取り組んで下さい。実験（データ収集）、データ解析、報告書の作成、研究発表および論文作成では、担当教員他と十分な討議を行って下さい。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	理学療法における研究の意義、基本的な進め方、スモールグループにおける問題解決の意義と要点について卒業研究を通して学び、卒業後の根拠に基づいた理学療法（EBPT）や臨床研究の実践に活かしてください。 質問への対応：青木 薫 オフィスアワー：随時（要事前連絡） 保健学科南校舎1階 青木研究室 質問、相談には各担当教員が主に担当しますが、その他の教員も随時対応します。